Ⅴ．基礎的環境整備体制の充実に関する取組　１

特別支援教育の視点を取りいれた授業づくりの普及（富士見市）

目次

１．研究の背景と目的
（１）　基礎的環境整備と教員の専門性
（２）　富士見市の現状
（３）　研究の目的

２．方法
（１）　特別支援教育担当者会での研修及び研修事後アンケートの実施（研究１）
（２）　抽出学級での授業実践及び授業実践事後アンケートの実施（研究２）

３．結果
（１）　研修事後アンケート（研究１）
（２）　授業実践事後アンケート（研究２）

４．考察
（１）研究１と研究２のアンケート結果より
（２）今後に向けて

引用・参考文献

資料

１．研究の背景と目的

（１）　基礎的環境整備と教員の専門性

「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」（中教審報告,2012）には、「『合理的配慮』の充実を図る上で、『基礎的環境整備』の充実は欠かせない。そのため、必要な財源を確保し、国、都道府県、市町村は、インクルーシブ教育システムの構築に向けた取組として、『基礎的環境整備』の充実を図っていく必要がある。」と示されており、その具体的内容は、表 5-1 の８項目である。各学校では、この８項目を踏まえ、今ある環境の中でできることを考えながら基礎的環境整備を進めていくことが重要となる。

表 5-1　基礎的環境整備の８項目（中教審報告,2012）

（１）ネットワークの形成・連続性のある多様な学びの場の活用
（２）専門性のある指導体制の確保
（３）個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成等による指導
（４）教材の確保
（５）施設・設備の整備
（６）専門性のある教員、支援員等の人的配置
（７）個に応じた指導や学びの場の設定等による特別な指導
（８）交流及び共同学習の推進

本章の研究では、上記の表 5-1 にある（２）専門性のある指導体制の確保と、（６）専門性のある教員、支援員等の人的配置に注目し、基礎的環境整備の充実を図るための取組を行った。

教員の専門性としては、「学級づくり」「授業づくり」「生徒指導」が挙げられる。インクルーシブ教育システム構築のためには、これら３つに加え、「特別支援教育に関する知識・技能の活用」、「教職員及び関係者の連携・協働」、「共生社会の形成に関する意識」の３点も重要とされている（国立特別支援教育総合研究所,2014）。また、特別支援教育担当者の専門性についても、表 5-２に示す項目で整理されている。

表 5-2　インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育担当者の専門性
「障害のある子どもの指導に関する専門性」（国立特別支援教育総合研究所,2011-2012）

（１）障害の特性の理解と指導
（２）子どもの実態把握とアセスメント
（３）個別の指導計画の作成
（４）学級づくり・授業づくり

特に表 5-2 の（４）学級づくり・授業づくりは、障害のある子供の指導に関する専門性の中でも要となってくる要素である。

中教審報告では、「基本的な方向性としては、障害のある子どもと障害のない子どもが、できるだけ同じ場で共に学ぶことを目指すべきである。その場合には、それぞれの子どもが、

授業内容が分かり学習活動に参加している実感・達成感をもちながら、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身についているかどうか、これが最も本質的な視点であり、そのための環境整備が必要である。」と述べられている。

以上のことから、基礎的環境整備の充実に向かう要素の一つとして、教員の専門性の向上を図ること、その中でも授業づくりに力を入れることは大切なことであると考えた。

（２）　富士見市の現状

埼玉県富士見市には、小学校 11 校、中学校６校のほかに市立の特別支援学校（知的障害）がある。また、各小・中学校には、中学校２校を除いた全ての学校に特別支援学級が設置され、通級指導教室は、小学校に４教室、中学校に１教室設置している。学級の種別は表 5-3 に示した。

表 5-3　特別支援学級・通級指導教室設置状況（2018 年 4 月 6 日現在）

	特別支援学級		通級指導教室	
	知的障害	自閉症・情緒障害	難聴・言語	発達・情緒
小学校	１０	１２	2	2
中学校	4	3	0	1

注）小・中学校の特別支援学級担当者総数 32 名のうち、臨時的任用者は 18 名。
また、小・中学校の特別支援学級担当者総数 32 名のうち、特別支援教育経験年数３年未満の者は 15 名。

市や、学校内における事情で臨時的任用教員の担当者も依然として多い。約半数の特別支援学級の担当者が経験３年未満及び臨時的任用教員の担当者となっている（表 5-3 の注を参照)。指導者の不足 ・ベテラン層の大量退職の影響もあり、特別支援教育に精通している教員が少なく、校内に相談ができる人がいない状況がある。管理職や市教育委員会指導主事が適切な指導・助言を与えながら、特別支援学級担当者が学級経営をしているが、専門性の向上が難しいという現状がある。埼玉県全体でも同じような状況がみられる。(埼玉県総合教育センター, 2017)

また、市立の富士見特別支援学校では、2015・2016 年度の学校研究として「授業のシンプルデザイン」という特別支援教育の視点を生かした授業づくりを市内小・中学校（主に小・中学校特別支援学級へ）へ提案、発信した。しかしながら、普及しきれていない現状があり、活用しやすい内容に整理したり、発信の方法を工夫したりする必要があると考える。

（３）　研究の目的

富士見市教育委員会としては、基礎的環境整備を充実させる一つの大切な要素として、教員の専門性の向上を取り上げることとした。その中でも授業づくりという専門性の向上を目指していく。

前述の「２．富士見市の現状」でも述べたように、市内に市立の特別支援学校があり、特別

支援教育の視点を生かした授業づくりについて、研究の知見を得た。そこで、この先行研究を取り入れ、市内小・中学校の特別支援学級の担当者を対象に富士見市立特別支援学校が開発した「授業のシンプルデザイン」に関する研修を行い、特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりを普及していくことを目的とした。まずは、特別支援学級への普及を目的とする。また、研究の発表までで止まっていた先行研究（富士見市立特別支援学校，2017）の内容を、市内へ普及していくための実践的な取組として本研究を位置づけることができる。研究の構想を図 5-1 に示した。

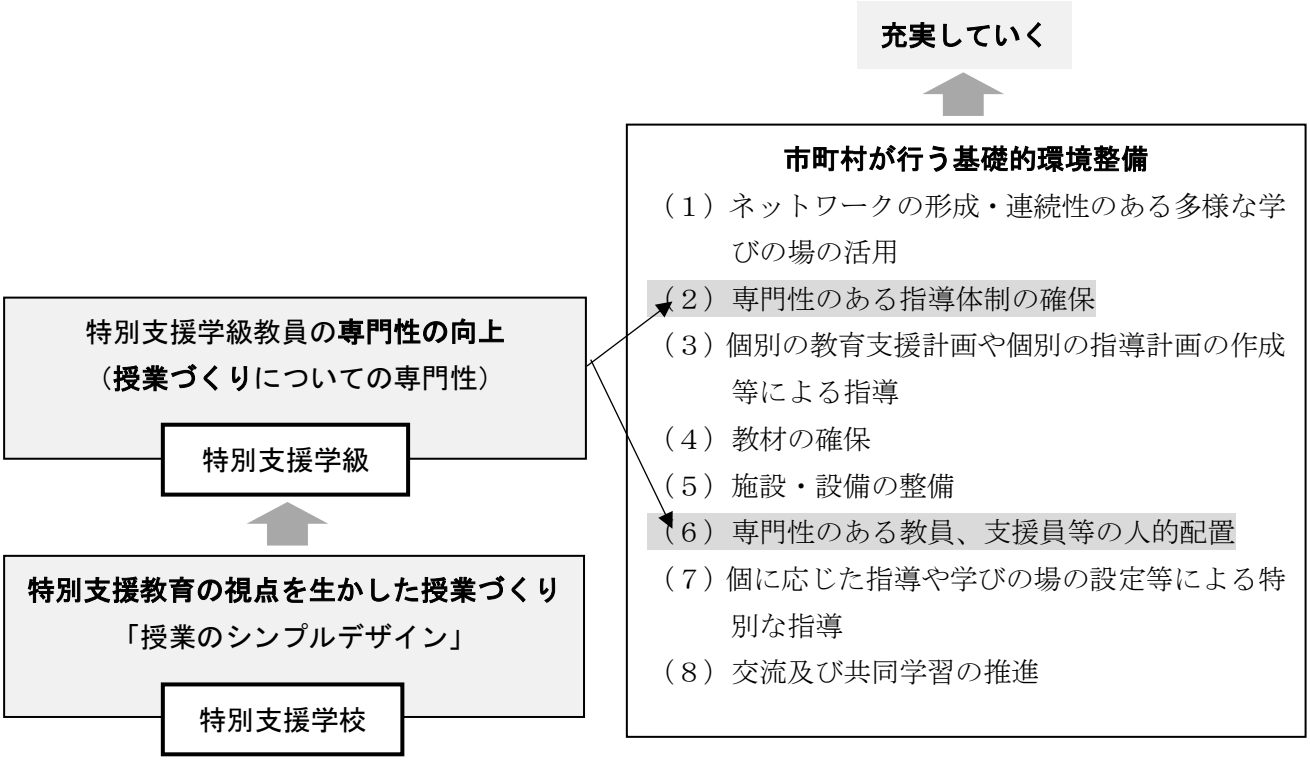


図 5-1　本章の研究構想

２．方法

１で述べた目的に向け、特別支援学級担当者会での研修と抽出学級での授業実践を行い、それぞれ実施後にアンケートをとった。なお、今回の対象である特別支援教育担当者は、特別支援教育の視点を取り入れた授業づくりに入るための基礎研修として、個別の教育支援計画・個別の指導計画作成に関する研修を４月に研修済みである。

（１）　特別支援教育担当者会での研修及び研修事後アンケートの実施（研究１）

１）対象

対象は富士見市内小・中学校の特別支援学級担当者（総数 32 名）のうち、担当者会の研修に参加した 20 名とした。

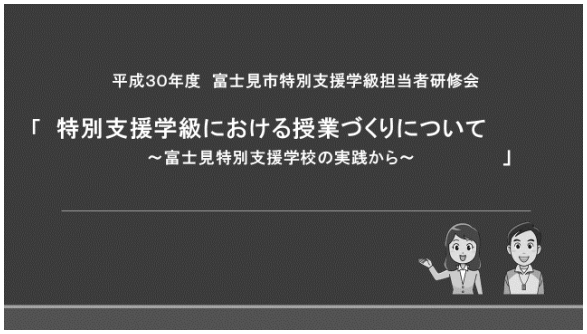
２）実施期日

2018 年 7 月 24 日 （３時間）

３）研修タイトル

研修タイトルは次の通りであった。「特別支援学級における授業づくりについて～富士見特別支援学校の実践から～」

研修で実際に使用したスライドを図 5-2 に示した。



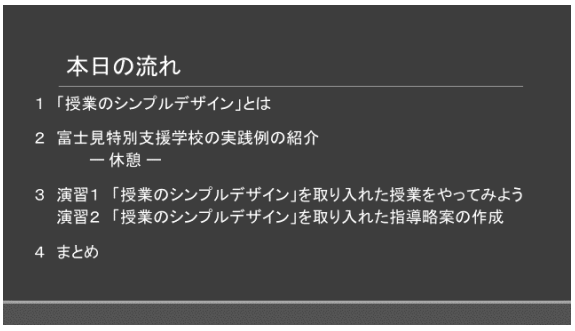


図 5-2　研修タイトル・研修の流れ

４）研修の内容

「授業のシンプルデザイン」とは、富士見特別支援学校が、2015・2016 年度の学校研究として行い、提案したもので、特別支援教育の視点を生かした授業づくりの基本フレームのことである。授業をつくる際に、「学習内容の焦点化」「展開の構造化」「時間の構造化」「場の構造化」の４つの視点を意識して授業を組み立てることで、授業を整えることができる。また、児童生徒にとって安心・安全な授業環境を設定することができるというものである。図 5-3 に「授業のシンプルデザイン」（富士見特別支援学校学校研究, 2017）を示した。

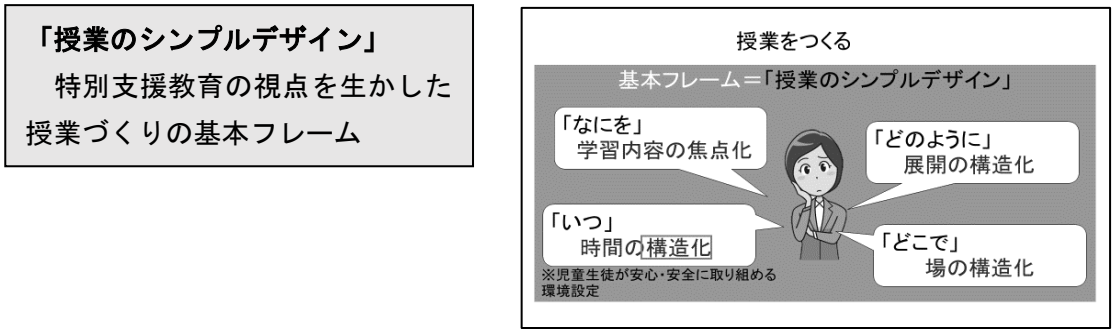


図 5-3　「授業のシンプルデザイン」（富士見特別支援学校学校研究, 2017）

この４つの視点は「埼玉県のユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業づくりの 12 のポイント『平成 24 年度 小・中・高等学校及び特別支援学校における ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業実践に関する調査研究最終報告』」（埼玉県総合教育センター, 2012）を参考にして作られたものである。４つの視点については、実践例を入れながら研修を進めた。その際用いたスライドを図 5-4 に示した。

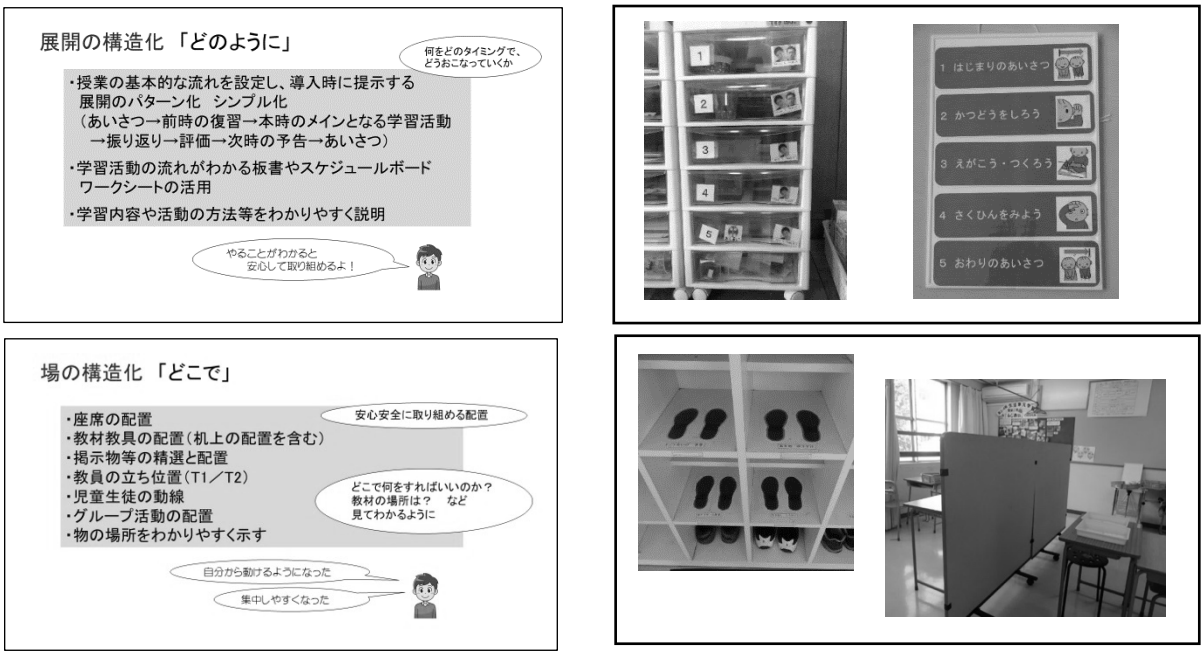


図 5-4　「授業のシンプルデザイン」実践例を示した研修スライド

演習では「授業のシンプルデザイン」を取り入れた略案を用いて行った。まず、略案の事例集を使って模擬授業を講師が行い、その後、受講者が実際に略案を作成してグループ協議を行った。研修の際に使用した演習テキストを資料 5-1 に示した。研修の様子を図 5-5 に示した。

図 5-5　研修の様子

５）研修事後アンケート

研修終了時、以下の質問項目の回答を求めた。質問紙を用いて行い、その場で回収した。アンケートの内容を表 5-4 に示した。

表 5-4　研修事後アンケート内容

①　学校種
②　特別支援教育経験年数
③「授業のシンプルデザイン」の事例について
④「授業のシンプルデザイン」の略案について
⑤　２学期からの授業について

（２）　抽出学級での授業実践及び授業実践事後アンケートの実施（研究２）

１）対象

対象は特別支援学級担当者会参加者から、無作為に抽出することとした。小学校特別支援学級を設置している４校を抽出した。表 5-5 に示した。

表 5-5　研究２の対象者

学校	学級数	児童数	教員数	実施者数
A	知的１・情緒１	３・５	2	1
B	知的１・情緒１	２・４	2	2
C	知的１・情緒１	２・２	2	2
D	知的１・情緒１	２・６	2	2

２）実施期間

2018 年９月下旬に各学校を訪問し、授業実践の依頼、実施方法の説明を行った。10 月から 11 月にかけて各学級で依頼した授業の実践を行った。その後、11 月下旬に各学校を訪問し、

授業実践略案、授業実践振り返りシート、授業実践事後アンケートの回収を行った。

３）依頼した授業実践内容

教科領域の指定、指導形態（教員一人で行う授業・TT で行う授業等）の指定、回数の指定等は行わず、ある程度の幅をもたせた条件で依頼した。授業実践の進め方については、図 5-6 に示した。

「授業のシンプルデザイン」指導略案の作成
↓
略案をもとに授業を実践
↓
振り返りシートの記入
↓
改善しての授業実践
↓
アンケートの記入

図 5-6　授業実践の進め方

４）授業実践事後アンケート

授業実践終了後、以下の質問項目の回答を求めた。質問紙を用いて行い、訪問し回収した。また、回答したアンケートのデータを市内共有サーバーにも保存した。アンケートの内容を表 5-6 に示した。

表 5-6　授業実践事後アンケート内容

①	授業づくりについて
②	教員の指導・支援について
③	児童の様子について
④	今後の研修について

３．結果

（１）研修事後アンケート（研究１）

１）対象者校種

研修事後アンケートの対象者 20 名のうち、小学校教員は 16 名、中学校教員は４名で対象者の 80%が小学校の教員であった。また、対象者全てが特別支援学級担当者であった。

２）対象者特別支援教育経験年数

研修事後アンケートの対象者 20 名のうち、特別支援教育経験年数が３年未満の教員が 10 名、３年以上の教員が 10 名と同数であった。また、経験年数が 10 年を超える教員は３名のみであった。経験年数の分布を図 5-7 に示した。

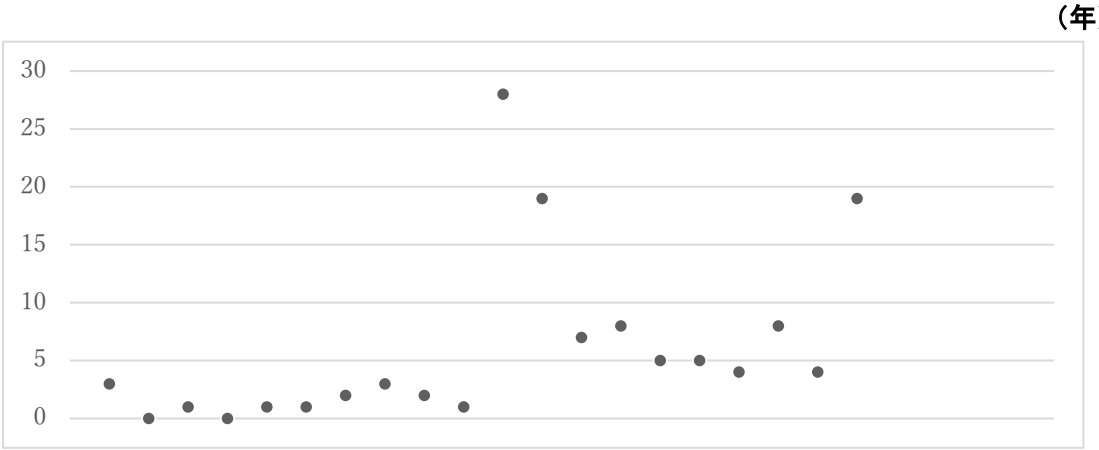


図 5-7　研究１対象者の特別支援教育経験年数(n=20)

３）アンケート集計結果

以下に研修事後アンケートに関する回答の集計結果を示した。

①　紹介した授業のシンプルデザイン（事例）は日々の授業に役立つ内容かについて

経験年数による回答の違いは、ほとんど見られず、それぞれ 80～90%の教員が「役立つ」と回答した。図 5-8 に示した。また、どのような点でそう感じたかという質問に対しては、「授業をつくるときに具体的に何をすればいいのか、分かりやすい。」「授業づくりのポイントが絞れてよい。」「うまく考えられた授業づくりのやり方で、とてもすっきりとしていると思った。」など、「授業のシンプルデザイン」を取り入れて授業をつくることに対して、よさを感じている教員が多いことがわかった。自由記述については、表 5-7 に示した。

【３年以上】

①役立つ（８）　②まあまあ役立つ（２）③あまり役立たない（０）④役立たない（０）

【３年未満】

①役立つ（９）　②まあまあ役立つ（１）③あまり役立たない（０）④役立たない（０）

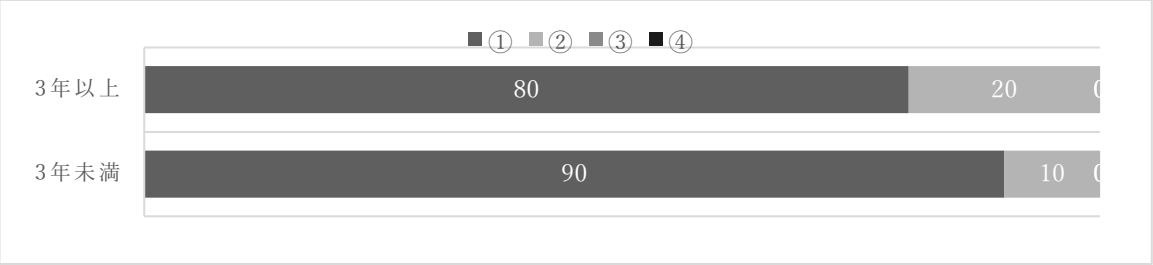


図 5-8　授業のシンプルデザイン（事例）は、日々の授業に役立つ内容かについて(n=20)

表 5-7　どのような点で図 5-8 のように感じたかについて

【３年以上】
・授業を計画するときの手順が見えやすい点と、大事にするべきポイントを落とさないようにする点でよいと感じた。
・「何を」「いつ」「どのように」「どこで」という視点が分かりやすい。
・授業づくりを見直すポイントがしぼれていてよい。
・とくに展開の構造化がすごく勉強になった。
・授業や学校生活で生かせるアイデアがあったから。
・うまく考えられた授業づくりのやり方で、とてもすっきりしていると思った。日々の授業で役立てたい。
・授業をつくるときに具体的に何をすればいいのかが分かりやすく、役立つと思う。
【３年未満】
・授業を考える際、シンプルデザインの視点を取り入れれば、どの子にとっても分かりやすい授業となる可能性が高いと感じた。
・授業の中でのシンプルデザインの活用の有効性はもちろんですが、当番や清掃の仕方など生活指導の中の具体的な場面でも、役立つと思った。
・「具体的に」どうするかを「いつ」「どこで」「どうやって」という視点で分けて、考えていけばよいということがわかった。
・とても分かりやすい。今後の授業計画に生かせる。
・明確にする基準を知れた。

②　略案は、授業づくりに使用できると思うかについて

略案を授業づくりに使用できると思うと回答したのは、経験年数が３年以上の教員は70%、３年未満の教員の 90%となり、若干であるが経験年数の浅い教員の方が、略案を授業づくりに使用できると感じた教員が多かった。図 5-9 に示した。また、どのような点で

そう感じたかという質問に対しては、「組み立て方がよく分かり、ねらいに沿って、見通しをもって授業をしていくことができると思った。」「書く項目が決まってて分かりやすい。」「シンプルデザインの授業を TT で行うときに役立つと思った。」など、この研修で使用した略案のよさを感じている教員が多いことがわかった。自由記述については、表 5-8 に示した。

【３年以上】
①思う（７）　②まあまあ思う（３）　③あまり思わない（０）　④思わない（０）
【３年未満】
①思う（９）　②まあまあ思う（１）　③あまり思わない（０）　④思わない（０）

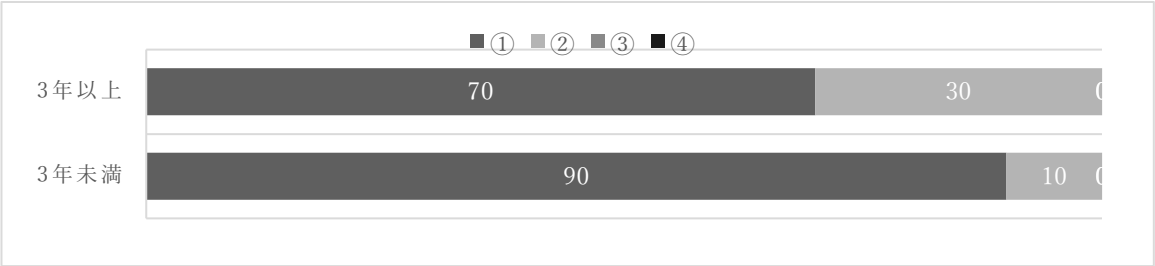


図 5-9　略案は、授業づくりに使用できると思うかについて(n=20)

表 5-8　どのような点で図 5-9 のように感じたかについて

【３年以上】
・書く項目が決まっていて分かりやすい。
・シンプルデザインの授業を TT で行うときに役立つと思った。
・考えを整理するのにすごく助かると思った。
・日々、多忙な中で略案づくりもできないまま授業を進めてきたが、この略案があれば、授業についてより内容を明確にした授業づくりができると思った。
・自分が授業の見通しがもちやすく授業づくりに使用できると思う。
【３年未満】
・いつも略案をどのように書けばいいか迷ってしまっていたので、明るい兆しが見えた。
・組み立て方がよく分かり、ねらいに沿って、見通しをもって授業をしていくことができると思った。
・この略案でつくったような見通しのある授業は、教室に落ち着きをもたらすと感じた。また、教員自身も児童に無駄な時間を与えることなく授業ができると思った。

③　授業でこの研修の内容を取り入れて授業をやってみようと思うかについて

経験年数による回答の違いは、ほとんど見られず、それぞれ 80～90%の教員が「やってみようと思う」と回答した。図 5-10 に示した。また、どのような点でそう感じたかという質問に対しては、「どの児童も分かりやすく、取り組みやすい内容は大切だと感じた。」「特別支援教育の視点を常に心掛けることの大切さがよくわかった。」「日々、授業について反省なく過ごしてしまっているので、振り返って改善していきたい。」等、自分の授業を振り返りながら

回答した教員が多いことがわかった。また、回答の中には、「普段当たり前にやっていること。」「すでにやっている。」という意見も見られ、研修内容に物足りなさを感じている教員もいた。自由記述については、表 5-9 に示した。

【３年以上】
①思う（８）　②まあまあ思う（２）　③あまり思わない（０）　④思わない（０）
【３年未満】
①思う（９）　②まあまあ思う（１）　③あまり思わない（０）　④思わない（０）

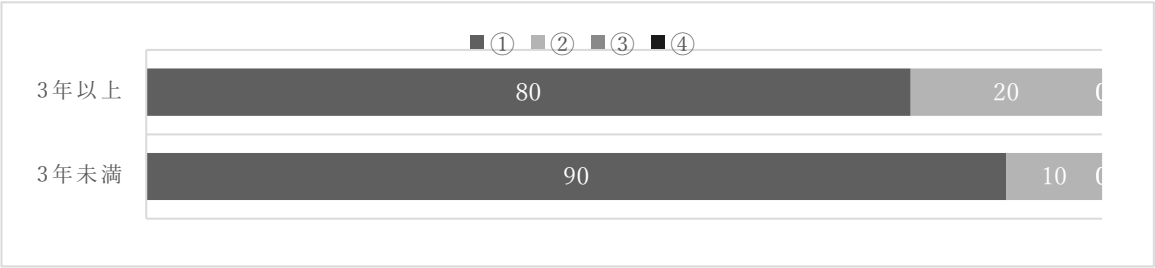


図 5-10　授業でこの研修の内容を取り入れて授業をやってみようと思うかについて(n=20)

表 5-9　どのような点で図 5-10 のように感じたかについて

【３年以上】
・普段当たり前にやっていること。
・日々、授業について反省なく過ごしてしまっているので、振り返って改善していきたい。
・特別支援教育の視点を常に心掛けることの大切さがよくわかった。
・めあてを具体的に提示することを意識して、取り組んでいこうと思う。
・すでにやっている。
・どの児童も分かりやすく、取り組みやすい内容は大切だと感じた。
【３年未満】
・配慮が必要な子はどの学級にもいると思う。その子が安心して学習に取り組める環境づくりも教員の役目だと感じた。
・活用してよりよい授業を目指したい。
・見通しをもたせる手立てとして、実践していきたい。

④　その他、意見質問について

アンケートの最後に自由記述で、回答を求めた。「とても勉強になった。」という意見が多かったが、「他に学びたいことがある。」「やりたいが時間が足りない。」という回答もあり、今後の研修内容の検討につながるような回答もあった。自由記述については、表 5-10 に示した。

表 5-10　その他、意見質問について

・とても勉強になった。
・特別支援学級の自立活動はどのようなことをおこなえばいいのか、事例を教えてほしい。
・中学校の特別支援学級では、授業＋部活動指導があり、教員同士が話し合いをしたり、教材研究をしたりする時間が足りません。丁寧な授業をするため、どうにかならないか、やりたいけどできないという気持ちをもっています。

（２）　授業実践事後アンケート（研究２）

１）実践した授業の内容

依頼した各学校において、以下の内容で授業を実践した。学校 A においては、初任者の研究授業を参観する機会があり、普段の授業を参観し、授業についてのフィードバックをおこなってから、「授業のシンプルデザイン」の略案を使って授業の実践に取り組んだ。依頼した実践授業内容を表 5-11 に示した。

表 5-11　依頼した実践授業内容

学校	教科領域	単元名・題材名	指導形態
A	算数科	２年生「九九（２のだんの九九をつくろう）」 ５年生「面積（平行四辺形の面積）」	教員１名
B	生活単元学習	「カレンダーを作ろう」	教員２名 支援員２名
C	図画工作科	「キラキラ万華鏡」	教員２名 支援員１名
D	図画工作科	「ハロウィンのお面を作ろう」	教員２名 支援員１名

作成した各校の指導略案、振り返りシート、アンケートは、紙ベースで回収するとともに市内共有サーバーにも保存した。サーバーに保存したものの一部を資料 4-1-２に示した。

２）アンケート集計結果

以下に授業実践事後アンケートに関する回答の集計結果を示した。

①　「授業のシンプルデザイン」を意識した授業づくりができたかについて

４人中、１人の教員が「できた」、３人の教員が「少しできた」と回答した。「あまりできなかった」「できなかった」と回答した教員は０人で、回答者全員が多少なりとも意識した授業づくりができたと感じていたことがわかった。

② 「授業のシンプルデザイン」を意識することで、授業を組み立てやすくなったかについて

４人全員の教員が「少しなった」と回答した。「なった」までは言えなかったが、「あまりならなかった」「ならなかった」と回答した教員は０人で、回答者全員が多少は組み立てやすくなったと感じていたことがわかった。

③ 「授業のシンプルデザイン」を意識した授業づくりを通して、自分の授業づくりや指導に変化は感じられたかについて

４人中、１人の教員が「感じた」、３人の教員が「少し感じた」と回答した。「あまり感じなかった」「感じなかった」と回答した教員は０人で、回答者全員が多少なりとも自分の授業づくりに変化を感じていたことがわかった。また、どのような点でそのように感じたかという質問に対しては、「教員も授業に見通しがもてた」「じっくり考えられた」等、授業づくりや指導によい変化を感じていることがわかった。表 5-12 に示した。

表 5-12　自分の授業づくりや指導の変化はどのような点で感じられたかについて

・分かりやすく授業を組み立てようという意識がもてた。
・学習内容、展開、場、時間の視点から授業を考えることで、具体的な手立てを考えやすかった。
・授業を考える中で、自分で見通しをもつことができた。
・どの場面でクラスの児童の困り感が出てくるかをじっくり考えることができた。
・活動の流れの見通しを教員ももてる。

④ 「授業のシンプルデザイン」を用いて授業を行うことで、児童に変化が感じられたかについて

４人全員の教員が「少し感じた」と回答した。「感じた」までは言えなかったが、「あまり感じなかった」「感じなかった」と回答した教員は０人で、回答者全員が多少は児童に変化を感じていたことがわかった。また、どのような点でそのように感じたかという質問に対しては、「主体的に取り組もうとする姿か見られた。」「達成感を得られている様子が見られた。」等よい変化を感じていることがわかった。表 5-13 に示した。

表 5-13　児童の変化はどのような点で感じられたかについて

・取り組む内容や方法が分かりやすく、主体的に取り組もうとする姿が見られた。
・課題に対する達成感を得られている様子が見られた。
・いつもより課題がスムーズに流れた。

⑤ 今後研修で学びたい内容はどのようなことかについて

アンケートの最後に自由記述で、回答を求めた。「教材づくり」という意見が多かった。表 5-14 に示した。

表 5-14　今後研修で学びたい内容について

・自立活動等の教材作り
・異年齢集団で楽しんで学習できる教材作り
・児童の実態に応じた教材作り
・支援員との上手な連携でつくり上げる授業づくり

依頼した授業について、フィードバックを行う時間はとることができなかったが、授業実践事後アンケート配布、回収の訪問の際に、対象者より次のような意見もあげられた。

・勝敗にこだわり、１番じゃないと大騒ぎになる子がいて困っている。子供の特性に対する指導・支援の方法が知りたい。
・教科ごとの授業事例があるとよい。
・交流で抜けたりするので、クラス全体の授業の組み立てが難しい。

４．考察

研究１の対象者は 20 名、研究２の対象者は４名であり、対象人数が少ない。そのためアンケートの分析は、数値だけでなく記述も含め総合的に分析し、考察を行った。

（１）研究１と研究２のアンケート結果より

研究１のアンケート結果より、「授業のシンプルデザイン」を用いた授業づくりは、特別支援学級の担当者にとって、授業づくりのツールとしてよいもので、使ってみたいと思えるものであったと考えられる。また、研究２のアンケート結果からは、実際に「授業のシンプルデザイン」を取り入れた授業をやってみたところ、指導面や児童の様子によい変化を感じていることが分かる。これにより、「授業のシンプルデザイン」は実際に使ってみても、授業づくりのツールとしてよいものだと考えられる。すなわち、「授業のシンプルデザイン」は、授業の基盤を整えたり、特別支援教育の視点を意識して授業を行ったりする方法として有効であるということが言える。また、富士見特別支援学校の先行研究富士見特別支援学校学校研究, 2017）と同じような結果が、特別支援学級でも得られたということで、先行研究で提案した内容を特別支援学級でも使っていくことができると感じた。しかしながら、今回のツールとして用いた「授業のシンプルデザイン」は、授業の基盤を整える方法であり、整ったところに個別の指導支援や授業の工夫が必要である。そのため、本章の取組は、特別支援教育の視点を意識した授業づくりをおこなっていくための切っ掛けにはなったが、実際にそれぞれの授業づくりが充実していくところまでは達していない。富士見特別支援学校の先行研究富士見特別支援学校学校研究, 2017）では、「授業のシンプルデザイン」のイメージを図 5-11 のように示している。

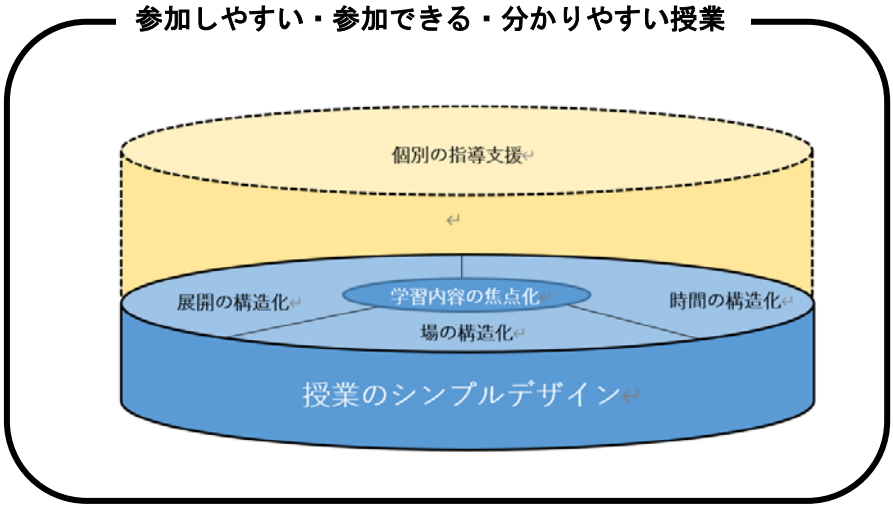


図 5-11　授業のシンプルデザインのイメージ図

また、研究１と２の結果より、特別支援学校から発信し、具体的な実践例を入れながらの研修や、実際にそれぞれの教員が担当する学級で授業を実践しての研修は、教員の授業づくりや指導の方法の見直す良い機会になった。埼玉県総合教育センターからは、「特別支援ハンドブック」という特別支援学級担当者に必要な教育課程を中心とした基礎的な知識・技能を

まとめたものが出されている。このようなハンドブックで自主学習をするだけでなく、実践的な研修を重ねることでより、専門性は向上することも考えられる。「平成 29 年度調査報告書『特別支援学級の教育課程編成の在り方に関する調査研究』」（埼玉県総合教育センター, 2017）の講評の中で、神山（2017）は教員の専門性向上のためには、階層的に様々な方策を各学校や地域で考える必要があると述べている。教員の専門性サポートの階層例を図 5-12 に示した。

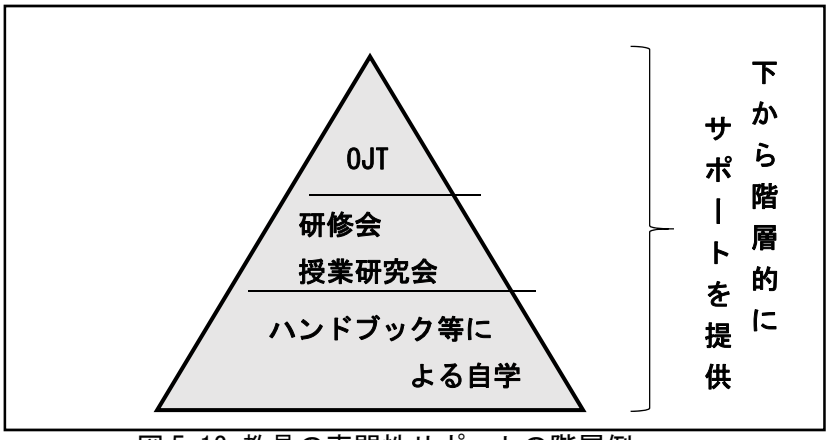


図 5-12 教員の専門性サポートの階層例

今回の研修は図 5-12 で示した階層の真ん中に当たるが、研究２では、研究１の研修の内容を実際の現場で実践的に取り組みながら、また日々の授業の中で取り組んだというところから、一部最上階層の「OJT」にもつながっていると考えられる。今回研究２のアンケート回収では、回収のみで授業を実践してのフィードバックを行うことができなかった。実践的な研修がより有効なものになり、研修に取り組んだ教員の専門性を向上させるためには、フィードバックの機会を設定する必要がある。

研修の内容については、実践の後にアンケートをとることで、実施内容を見直し、改善を行うことができると考えられる。研究１と２の結果にある「学びたいと考えている内容」やアンケート配布回収時の意見をみると、研修の内容についてもそれぞれの教員が学びたいと考えている内容に応じているとは言えない。より研修を有意義なものにするためには、今後内容の検討が必要である。

１．の富士見市の現状で述べたが、富士見市の小・中学校の特別支援学級担当者の約半数が、臨時的任用者である。そのため教員の入れ替えが多く、研修で学んだ内容を年度が替わっても継続して実践していくのが難しいという現状がある。また、特別支援教育の経験年数が少ない教員も特別支援学級の担当者の約半数を占めているため、基礎的な知識・技能を丁寧に学ぶ機会が必要となってくる。以上のことから、研修の継続の仕方や研修の内容も検討していく必要がある。

（２）今後に向けて

１で述べたことを踏まえ、今後、教員の授業力、専門性の向上のために、研修システムを検討し、継続していく必要があると考える。その一つの案として、以下のような研修システム

試案、研修パッケージ試案を提案する。

①　研修システム試案

今年度の研修の流れをもとに作成した。特別支援学校の研修担当者が、特別支援学級担当者会において、特別支援教育基礎研修、「授業のシンプルデザイン」を使った授業づくりの研修を行う。次に各支援学級で授業実践の研修を行う。それぞれの研修終了後には、アンケートをとる（授業実践後は、授業のフィードバックを行う）。研修検討チームにおいてアンケートをもとに、研修の内容の検討、見直しを行い、次年度の研修内容の立案につなげる。このように研修の流れを PDCA サイクルで行っていく。研修システム試案を図 5-13 に示した。

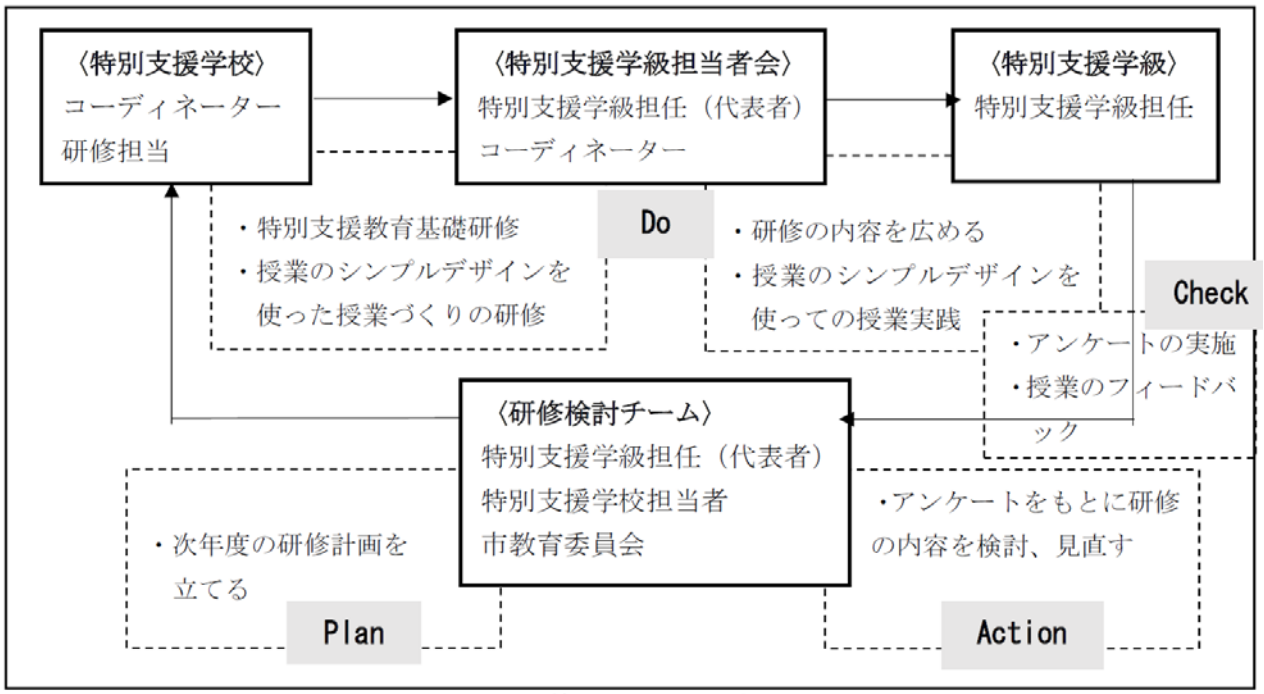


図 5-13　研修システム試案

②　研修パッケージ試案

このシステムに関わる担当者が入れ替わったとしても継続していけるように、研修の資料や授業実践の資料を一つのパッケージにまとめ、引き継いでいく。パッケージの内容を図 5-14 に示した。

〈パッケージの内容〉
①研修システム図
②研修資料
③研修事後アンケート
④「授業のシンプルデザイン」略案書式
⑤授業実践振り返りシート
⑥授業実践事後アンケート
⑦研修見直し検討シート
⑧研修計画作成シート

図 5-14 研修パッケージ試案

この研修パッケージ試案と授業実践で作成した略案は、市の共有サーバーにアップし、市内の教員がいつでもみられるようにしておく。アップした内容は、各教員の授業づくりや指導のヒントとなり、授業例が知りたいという教員の要望に応えるとともに授業づくりがしやすくなるという効果も期待できる。図 5-15 に市内共有サーバーを示した。

図 5-15　市内共有サーバー

以上のような研修システム試案、研修パッケージ試案を実施することで研修の内容も改善充実し、継続していくことができると考える。今回の研究は、図 5-1 の研究構想でも示したが、基礎的環境整備の充実にむけて、市教育委員会が行うことの一つの要素である。今回の内容に合わせて基礎的環境整備の８項目の全ての内容に取り組んでいくことは、必須と考えられる。また、教員の専門性の中でも授業づくりのみに焦点を当てて研修を行った。１で述べたように学級づくりや生徒指導、特別支援に関する専門的知識・技能についても研修を重ねていく必要がある。普及については、先行研究の発表で止まっていたものを特別支援学級に広めるというところに入ることができた。しかしまだ入り口であり、インクルーシブ教育システムの構築に向けて、内容を検討しながら最終的には、通常の学級に普及していく必要

である。

このように、本章の研究は、市教育委員会が行う基礎的環境整備の充実に向けての一部分であり、第一歩を踏み出したような取組である。この歩みを止めることのないように努めていくことが責務であると感じる。そして、本章の研究は、今回試案の提案という形で終わっている。今後は、この試案を実践し、より具体的に提案内容を分析していくことが望まれる。

引用・参考文献

阿部利彦（2017）．授業のユニバーサルデザインと合理的配慮．金子書房.

青山新吾（2016）．インクルーシブ教育ってどんな教育？．学事出版.

富士見市教育委員会（2018）．平成３０年度富士見市教育要覧 富士見市の教育.

富士見特別支援学校（2016）.「授業のシンプルデザイン―授業を整える―」富士見市教育委員会委嘱研究研究紀要.

国立特別支援教育総合研究所（2015）．国立特別支援教育総合研究所インクル DB（インクルーシブ教育システム構築支援データベース）．〈http://inclusive.nise.go.jp/?page_id=40〉（アクセス日 平成30年11月20日）

国立特別支援教育総合研究所（2013）．インクルーシブ 教育システムにおける教育の専門性と研修カリキュラムの開発に関する研究．専門研究Ａ研究成果報告書 〈http://www.nise.go.jp/cms/resources/content/8611/c-91.pdf〉（アクセス日 平成30年11月20日）

国立特別支援教育総合研究所（2015）．インクルーシブ 教育システム構築に向けた取組を支える体制づくりに関する実際的研究－モデル事業等における学校や地域等の実践を通じて－．専門研究Ａ研究成果報告書．〈http://www.nise.go.jp/cms/resources/content/10802/20150915-173300.pdf〉（アクセス日 平成30年12月23日）

国立特別支援教育総合研究所（2016）．インクルーシブ教育システム構築のための体制づくり　に関する研究－学校における体制づくりのガイドライン（試案）の作成－．専門研究Ａ研究成果報告書．〈http://www.nise.go.jp/cms/resources/content/12444/saika1.pdf〉（アクセス日 平成30年12月23日）

国立特別支援教育総合研究所（2018）．インクルーシブ教育システム構築に向けた 研修に関する研究．研究成果報告．〈http://www.nise.go.jp/cms/resources/content/7412/20180628-115130.pdf〉（アクセス日 平成30年12月23日）

国立特別支援教育総合研究所（2018）．地域におけるインクルーシブ教育システム構築 に関する研究．研究成果報告．〈http://www.nise.go.jp/cms/resources/content/7412/2018-0628-115005.pdf〉（アクセス日 平成30年12月23日）

国立特別支援教育総合研究所（2015）．共に学び合う インクルーシブ教育システム構築に向けた児童生徒への配慮・指導事例―小・中学校で学習している障害のある児童生徒の１２事例―．ジーアス教育新社.

国立特別支援教育総合研究所（2016）．インクルーシブ教育システム構築のための学校における体制づくりのガイドブック―すべての教員で取り組むために―．東洋館出版社.

埼玉県立総合教育センター（2012）．小・中・高等学校及び特別支援学校におけるユニバー

サルデザインの視点を取り入れた授業実践に関する調査研究．調査研究報告書第 364 号.
埼玉県総合教育センター（2018）．特別支援学級の教育課程編成の在り方に関する調査研究．調査研究報告書第 402 号．特別支援学級ハンドブック
文部科学省（2007）．特別支援教育の推進について（通知）．〈http//www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/07050101.htm〉（アクセス日 平成 30 年 11 月 20 日）
中央教育審議会初等中等教育分科会（2012）．共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）.〈http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/044/attach/1321669.htm〉（アクセス日 平成 30 年 1120 日）
涌井恵（2014）．学び方を学ぶ 発達障がいのある子どももみんな共に育つユニバーサルデザインな授業・集団づくりガイドブック．ジーアス教育新社

演習テキスト

演習１　「授業のシンプルデザイン」を取り入れた授業をやってみよう

〈進め方〉

①グループで自己紹介（司会と計時を決めて下さい）

②略案集の中から１つ選び、授業をイメージする（５分）

③略案をもとに一人３分で模擬授業をおこなう

＊導入、振り返りなどやりやすいところのみでよい

＊授業者以外は生徒役になる

④感想を一人ずつ言う（意見交換）（５分）

演習２　「授業のシンプルデザイン」を取り入れた指導略案の作成

〈進め方〉

①個人で略案を作成（１０分）

②一人３分で作成した略案を提示し、グループ内で発表

＊「授業のシンプルデザイン」をどのように取り入れたか

＊作成してみての感想

＊質疑応答

記入例

「美術」学習指導略案

平成３０年　６月　５日（火）　１３：２５　～　１４：１５

①授業を設定する（１学期におこなった授業でも、２学期予定している授業でもよい）

場所　中学部ホール
単元名（題材名）「お面を作ろう」
単元（題材）のねらい

②ねらいを設定する（本時のねらいは学習内容を焦点化し、具体的に内容を絞って設定する）

・イメージを持って作品作りに取り組むことができる。
・紙粘土を扱うことができる。
・造形活動を楽しむことができる。

本時のねらい【学習内容の焦点化】

・紙粘土にふれることができる。
（めあて）ねんどにふれよう！

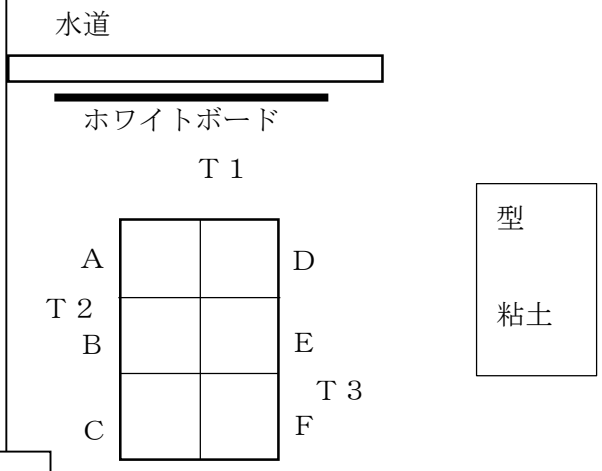
③展開を設定する（どのような項目をどのような流れでおこなうか設定する）

本時の授業【時間の構造化・展開の構造化】

時間	展開
１３：２５	１はじまりのあいさつ ２かつどうをしろう 今日やる作業を説明、めあての提示
１３：３５	３えがこうつくろう ①型を選ぶ ②型をラップでくるむ ③型にねんどを貼り付ける
１４：００	４かたづけ ５ふりか[illegible]
１４：１５	６おわりのあいさつ

④時間を設定する（どのような時間配分でおこなうか設定する）

配置【場の構造化】



⑤場を設定する（どのような場でおこなうか、生徒と教員の配置も考える）

シンプルデザインの視点・工夫

・はじめに粘土の見本を見せる（学習内容の焦点化）
・めあてをホワイトボードに提示し、みんなで声に出して言う（学習内容の焦点化）
・今日の流れを伝えてから、具体的な説明に入る（展開）
・ホワイトボードに流れを掲示し、今やっている項目に印をつける（展開・時間）
・タイムタイマーを使用する（時間）
・粘土は色ごとにトレーに入れ、トレーには色のカードを貼り、選ん[illegible]り片付けやすくする（場）
・友達のやり方を見たり、作品のよさを感じることができるように机に[illegible]い合わせにする（場）

留意点・その他

・粘土が作業途中乾いてきたら、霧吹きでしめらす
・紙粘土は混色して使って良い
・作品は濡れたタオルにくるみビニール袋に入れて教材室へ

⑥上の部分に書き入れることができなかった工夫を箇条書きで書く

本日の研修の感想をご記入ください。あてはまるものを選び、書ける範囲で記述欄の記入もお願いします。

学校名	
教員経験年数（うち特別支援経験年数）　　年（　　年）	
1　紹介した授業のシンプルデザイン（事例）は、日々の授業に役立つ内容でしたか。 ①役立つ　②まあまあ役立つ　③あまり役立たない　④役立たない （どのような点でそう感じましたか）	
2　略案は、授業づくりに使用できると思いますか。 ①思う　②まあまあ思う　③あまり思わない　④思わない （どのような点でそう感じましたか）	
3　２学期からの授業で本日の研修の内容を取り入れて、授業をやってみようと思いますか。 ①思う　②まあまあ思う　③あまり思わない　④思わない （どのような点でそう感じたか）	
4　その他ご意見、ご質問等ありましたらお願いします。	

「　　」学習指導略案

平成　　年　　月　　日（　　）　　：　～　　：

場所

単元名（題材名）

単元（題材）のねらい

本時のねらい【学習内容の焦点化】

（めあて）

本時の授業【時間の構造化・展開の構造化】

時間	展開

配置【場の構造化】

シンプルデザインの視点・工夫

留意点・その他

資料 5-2　授業実践　D 校の取組

「図画工作科」学習指導略案

平成３０年　１０月　２４日（水）　１３：５０～１４：３５（４５分）

場所

単元名（題材名）　　「ハロウィンのお面を作ろう」（２時間扱い）

単元（題材）のねらい

・イメージをもって作品作りに取り組むことができる。
・はさみ・ホッチキスを扱うことができる。
・活動を楽しむことができる。

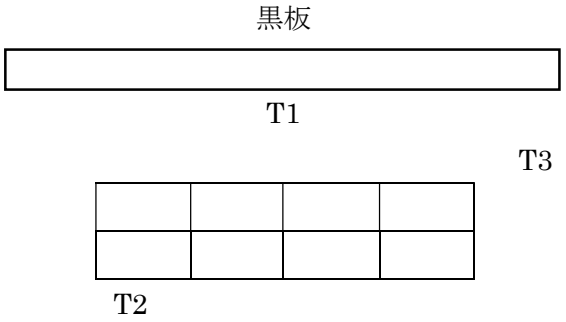
本時（１／２時間）のねらい【学習内容の焦点化】

・はさみの扱いに気をつける。
（めあて）①おめんをていねいにきろう。　②ゴミを０にしよう。

本時の授業【時間の構造化・展開の構造化】

時間	展開
１３：３５	１．あいさつ ２．かつどうをする 今日やる作業の説明 めあてや時間の提示
１３：４５	３．つくってみよう ①はさみでおめんのかたちをきる ②いろぬり（いろえんぴつで）
１４：２５	４．かたづけ ５．めあてのふりかえり ていねいにきることができたか 机の上や床をきれいに掃除できたか
１４：３５	６．あいさつ

配置【場の構造化】



シンプルデザインの視点・工夫

・はじめに完成形を見せる。（ゴールまでの見通しを持たせる）
・活動中のめあて、片付けのめあてを提示し、意識させる。（学習内容の焦点化）
・タイムタイマーを使用して、時間を提示する。（時間の見える化）
・黒板に活動内容の流れを提示し、今やっている場所にマグネットをつける。（展開の構造化）

留意点・その他

・はさみの扱い方に気をつける。投げる児童がいるため注意が必要。
・１度失敗すると気持ちが落ちてしまう児童がいるため、予備があることを事前に説明しておく。
・時間がきても作業を続けてしまうことが予想されるため、タイムタイマーで意識させる。

≪授業　振り返りシート≫　（自己評価）　　１０月　２４日の授業について

Ⅰ.自分の授業づくりや指導に変化がみられたか

１．みられていない　２．あまりみられていない　３．少しみられた　④．みられた

Ⅱ.子どもの様子に変化がみられたか

１．みられていない　２．あまりみられていない　③．少しみられた　４．みられた

どのような点　（良かった点　　●改善点）

学習内容	・図工という教科の枠の中で、児童に身につけさせたい力をしぼった上で、授業を考えることができた。 ・完成形を見せることで、学習意欲の向上と共に、見通しを持って取り組むことができていた。 ●活動が終わった子に読書をさせていたが、簡単な色塗りでも用意してあげるべきか。 色塗りも最後までやり終えたいということが想定されたため、今回は取り組ませなかった。また、学校全体が読書月間だったため。
展開	・ていねいにおめんの形をきることができた。 ・オリジナルのカラーに仕上げていて、自由度の高い作品となった。 ●活動の時間に差があるので、もっと難易度に幅をもたせてあげるべきだった。
時間	・全員が時間を意識して、活動時間内に終えることができた。
場	●隣の児童の真似をして作品作りに取り組む児童がいるので、全員が見える形にはしなかったが、よりよい場の設定を考える必要がある。
その他	

Ⅲ.次回の授業ではどのようなことを意識して取り組みたいか

・時間配分。
・ていねいにということがどういうことなのか提示してあげたい。※見本を２つ用意する。
・ゴミを捨てるタイミングがばらばらになってしまったので、小さいお皿を配布して入れておくという設定が必要だった。（他の児童の立ち歩きで集中力をきらしてしる児童もいたため）

地域実践研究アンケート

「授業のシンプルデザイン」を用いての授業づくり、授業実践のご協力、ありがとうございました。これまでの取り組みを振り返り、以下の質問にお答えください。

学校名	
特別支援経験年数	

（該当する番号に〇をつけてください。また、自由記述欄もお願いします。）

1	「授業のシンプルデザイン」の視点を意識した授業づくりができたか ① できた　② 少しできた　③ あまりできなかった　④ できなかった
2	「授業のシンプルデザイン」を意識することで、授業を組み立てやすくなったか ① なった　②少しなった　③ あまりならなかった　④ ならなかった
3	「授業のシンプルデザイン」を意識した授業づくりを通して、自分の授業づくりや指導に変化は感じられたか ① 感じた　②少し感じた　③ あまり感じなかった　④ 感じなかった ●どのような点で
4	「授業のシンプルデザイン」を用いて授業をおこなうことで、児童生徒に変化が感じられたか ① 感じた　②少し感じた　③ あまり感じなかった　④ 感じなかった ●どのような点で
5	今後、研修で学びたい内容はどのようなことですか